

## 適時開示案件説明会（豪州 Rhodes Ridge 鉄鉱石事業の権益取得）

日時：2月19日（水）17:00-18:00

説明者：代表取締役社長 堀 健一

### 【冒頭挨拶】

社長の堀です。本日は急なお声かけにも関わらず、お集り頂き、まことにありがとうございます。先ほど発表しました通り、当社は Rhode Ridge 鉄鉱石事業の 40%権益を取得することとなりました。

投資額は 8,000 億円規模となり、一案件への投資額として、過去最大となります。

この Rhodes Ridge は当社が 1960 年代から鉱山開発を手掛け、最も知見を有する西豪州に所在するプロジェクトであり、これまで築き上げた事業基盤を数段強化する事業と言えます。当社が良く知る領域、地域、またパートナーとのプロジェクトであり、取締役会において全会一致で推進すべきプロジェクトと判断しました。

本日、Rhodes Ridge のオペレーターである Rio Tinto から当社の参画を歓迎する旨のリリースがされており、両社の長期的なパートナーシップに触れていただいています。

### 【案件概要】

それでは、Rhodes Ridge 鉄鉱石事業の概要を説明いたします。

Rhodes Ridge JV は西豪州で莫大な未開発鉄鉱床の権益を保有しています。既に確認されている鉄鉱石の資源量だけでも、68 億トンと未開発鉄鉱床としては世界最大規模です。

現在は Rio Tinto が権益の 50%、AMB と VOC がそれぞれ 25%を保有していますが、今回当社は合計 40%を 53 億 4,200 万ドルで取得します。VOC との間で権益 25%を取得する旨の譲渡契約を締結し、また、AMB との間で、15%取得について基本合意いたしました。基本合意した 15%に関しては、今後、デューデリジエンスや交渉を経て、最終契約を締結する予定です。

鉄鉱石は当社が大きな強みを有する中核事業であり、長期的な鉱量拡充を重要目標として取り組んできました。Rhodes Ridge は膨大な鉱量に加えて、大規模生産も可能、更には既存の鉄鉱石事業とのシナジーも期待できる優良案件として、長年の交渉を経て今般取得合意に至ったものです。

現在の開発段階は初期調査中で、2030 年までに生産を開始する予定です。先ず年産 4 千万トンで立ち上げ、将来的には年産 1 億トンを超える生産を予定しています。当社収益性の観点では、年産 4 千万トン体制で 1,000 億円規模、年産 1 億トン超体制では 2,500 億円規模の基礎営業キャッシュ・フローを見込んでいます。

### 【RR 鉄鉱石事業の競争力】

Rhodes Ridge 鉄鉱石事業の競争力について説明致します。

先ず、本件が位置する豪州は政治的に安定しておりカントリーリスクが低く、中国及び今後伸び行くインドや東南アジア等の鉄鉱石市場へのアクセスも良いことから、鉄鉱石事業の運営に当たり大きな利点を有しています。中でも西豪州は、世界最大級の鉄鉱石生産地域であり、特にピルバラ地域（Pilbara）は、膨大な埋蔵量と最低限のプロセスで輸出可能な低コスト・高品位の鉄鉱石で知られています。本件は、そのピルバラ地域における最後の大規模未開発鉄鉱床です。

ここに記載の通り「世界最大規模の資源量」、「豪州最高クラスの品位」、「実績あるオペレーターとの提携」、「近接する既存インフラ活用による低開発コスト・リスク」、が特長として上げられ、ピルバラ地域に残されたクラウンジュエルとされている鉄鉱石事業となります。

先ず 1 点目ですが、バブルチャートで示している通り、資源量は世界最大規模であり、拡張余地も大きく、一つの鉱山・鉱区としては世界最大級の操業規模となるポテンシャルがあります。

続いて品位ですが、Rhodes Ridge の平均鉄分は 61.6%と豪州の他案件と比べて高く、鉄鉱石業界で一部の大規模鉱山が生産減少、品位低下に向かう中、長期的な競争力を備えています。

また、オペレーターは、Robe River Joint Venture を通じて当社が長期的な関係を持つ資源メジャーの Rio Tinto です。

### 【シナジー1：既存鉄鉱石事業のインフラ活用】

既存事業とのシナジーについてご説明します。一つ目は、既存インフラの活用によるシナジーです。

一般的に、新規の鉱山開発に当たっては、鉄道や港湾のインフラ建設に多額の CAPEX が必要となり、また建設遅延などのリスクもあります。

この点、Rhodes Ridge は新規開発案件ではありますが、当社が出資する Robe River Joint Venture 及び Rio Tinto の保有する鉄鉱山に近接しているため、既存鉄道・港湾インフラをそのまま活用することができます。これにより、通常の新規鉱山開発案件と比較し、開発費用と開発リスクを低く抑さえ、迅速な生産立上げが期待できます。

その他にも、Rio Tinto と当社が、Robe River と Rhodes Ridge という近接する Joint Venture の両方に参画していることで、開発、操業効率化等において様々なシナジー機会がもたらされると考えています。一例として、既存インフラの延伸があげられます。Rhodes Ridge 南部の鉱区には今や稀少性の高い低リン分という特徴を持つ鉱石が存在しますが、既存インフラの延伸によりその南部鉱区の追加開発の可能性があります。こういった取組みを通じて開発を加速し、既存事業と Rhodes Ridge を合わせた価値を向上できる可能性があると考えています。

### 【シナジー2：他鉱石とのブレンド】

続いて鉄鉱石品位・販売面でのシナジーについて説明致します。

Rhodes Ridge の鉄鉱石は、当社出資鉱山を含む Rio Tinto の他鉱山の鉄鉱石とブレンドし、Pilbara Blend として出荷される予定です。Pilbara Blend は世界で最も多く取引されている鉄鉱石銘柄であり、製鉄会社の高炉安定操業を維持するために重要な鉄鉱石となっています。

業界全体で、既存鉱山の枯渇に伴い品位の維持が難しくなっていますが、西豪州では、特に不純物のリン分の上昇が課題です。既存鉱山では、高いリン分のために Pilbara Blend として販売できない鉄鉱石もあります。Rhodes Ridge が豊富に持つリン分の低い鉄鉱石は、既存鉱山の高リン分鉄鉱石の有効活用を可能とすることで、既存事業にも長期的なシナジーをもたらします。

当社は Rhodes Ridge の開発を通じて、今後とも世界の鉄鉱石の安定供給を実現していきます。

### 【RR 鉱山の生産数量見通しとキャッシュ創出力】

Rhodes Ridge 鉄鉱石事業の生産数量見通しとキャッシュ創出力について説明致します。

冒頭に触れました通り、Rhodes Ridge は 2030 年までに生産を開始、初期は 4 千万トンの生産体制を見込み、将来的には 1 億トンを超える生産体制を想定しております。

当社の基礎営業キャッシュ・フロー見通しは、年産 4 千万トン体制で 1,000 億円規模、年産 1 億トン超体制で 2,500 億円規模を見込んでいます。

投資リターンはベースケースで当社の投資ハードルレートを超過しており、これに加え、生産早期化や生産数量拡大、他鉱山との操業体制最適化などに伴う将来的なアップサイドの実現に向け取り組んでまいります。

### 【サステナブルな開発・操業に向けて】

当社は、サステナビリティを重視した経営にあたっており、Rhodes Ridge 鉄鉱石事業においてもサステナブルな開発、操業を進めていきます。

西豪州の Pilbara 地域は自然資本に富んでおり、その環境や生態系を保護すべく、オペレーターである Rio Tinto を中心に開発計画を策定しています。

気候変動対策について、Rio Tinto は 2050 年ネットゼロミッションを掲げており、当社と一致しています。

2022 年に締結した MOU に基づき、当社の環境関連事業を Rio Tinto の鉱山事業に展開することも協議しており、GHG 排出量の少ない燃料・鉱山トラックへの切替や再生可能エネルギー導入による低炭素操業に取り組んでいきます。

Pilbara での鉄鉱石事業に於いて先住民の遺跡保護、地域社会との信頼関係構築は不可欠です。Pilbara で事業活動に携わるステークホルダーとして責任を果たすべく、Joint Venture パートナーである Rio Tinto、AMB と協働していきます。

#### 【鉄鉱石業界における三井物産】

当社は 1960 年代に豪州の鉄鉱山開発を手掛けてから、半世紀以上にわたり鉄鉱石事業に取り組み、多くの知見と実績を蓄積してきました。

2000 年代に入ると中国の需要急増に合わせて保有事業の大規模拡張に取り組み、Rio Tinto・Vale・BHP の鉄鉱石 3 大メジャーと強固なパートナーシップを醸成し、業界で稀有なポジションを確立しました。

そのような中、当社は、西豪州における最後の大規模未開発鉱床であり、クラウンジュエルといえる Rhodes Ridge 権益取得を目指し、2000 年代からオーナー一族との関係を構築してきました。

当時は多くのハードルがあり協議の進展は限定的でしたが、世代を超えて意思を繋ぎ、関係構築・醸成を続けることで、先方との相対交渉にこぎつけることができました。そして今般、20 年にわたる長い関係の最終成果として、この世界的にも非常に希少な権益取得の合意に至りました。

当社は、Rhodes Ridge の取得・開発を通じて、大きな強みである鉄鉱石事業の更なる発展に繋げていきます。

#### 【当社鉄鉱石事業の更なる盤石化】

当社は、海上貿易量の過半数を生産する 3 大メジャーをパートナーとして、鉄鉱石事業を運営しています。Rio Tinto、BHP と共同運営する Joint Venture に加え、当社が直接出資する Vale、この 3 本の柱は、圧倒的なコスト競争力や数量により、長きにわたり当社最大の収益源となっており、24/3 期には 3,277 億円の収益をもたらしました。

Rhodes Ridge に参画することで、当社が強みを持つ分野において第 4 の柱を打ち立て、鉄鉱石事業の更なる拡大・盤石化に繋げていきます。

#### 【鉄鉱石当社権益持分生産量推移】

当社の持分権益生産量の推移を説明致します。2015 年の持分権益生産量は年産 5 千万トンでしたが、その後各資産の拡張を続け、足元では年産 6 千万トンまで拡大しました。Rhodes Ridge への参画と既存事業の貢献により、将来的には当社権益は年産 1 億トンまで増大することが見込まれ、当社の長期的な収益基盤の更なる強化・拡大に繋がります。

#### 【今後も堅調な鉄鉱石の需要環境】

鉄鉱石事業の外部環境について説明致します。

中国の粗鋼生産量は今後緩やかに減少することが想定されますが、今後はインドや東南アジアで堅調な生産増加が見込まれ、世界の粗鋼生産量は今後も長期的に増加する見込みです。

一方、鉄鉱石の供給は、既存鉱山からの一部生産減退もあり、既存鉱区及び開発蓋然性の高い新規鉱区のみでは今後需要の伸びを満たすことができず供給不足となることを見込まれています。

また、スクラップ等を活用した電炉比率の上昇は一定程度予測されますが、電炉においても高品位鋼材の生産には引き続き鉄鉱石が必要であり、長期の鉄鉱石需給は堅調に推移していくものとみています。

#### 【RR 鉄鉱石の更なる可能性】

低炭素化の潮流の中で、鉄鋼業界でも各種の低炭素製鉄技術が検討されています。

足元の対応策として、高炉から電炉への移行、それに伴う還元鉄とスクラップの利用が注目されていますが、良質なスクラップの供給量は限定的であり、高級鋼材の生産には不純分の少ない鉄源である鉄鉱石が引き続き重要です。また、既存のプロセスで直接還元が可能な高品位鉄鉱石は供給量が限定的であり、これだけで鉄鋼業界の低炭素化を充分に実現することはできません。

これらの背景から、海上貿易で最も数量が多い、豪州などの中品位鉱を活用した低炭素製鉄プロセスが必要とされており、現在、業界を挙げて技術開発が進められています。具体的には、中品位鉱を原料とする還元鉄を生産し、電炉に用いて高級鋼材を製造することなどが挙げられます。これらの技術が実用化された際には、豪州鉱の中では比較的鉄分の高い Rhodes Ridge 鉄鉱石の用途は既存の高炉向け以外にも広がり、ますます需要が拡大することが見込まれます。

当社は現在検討を進めているオマーン還元鉄プロジェクトに加えて、水素、CCS/CCUS、再生可能エネルギーの各種取組を通じて、鉄鋼業界の低炭素化にも貢献していきたいと考えています。

#### 【キャッシュ・フロー・アロケーションへの影響】

本権益取得に伴う、キャッシュ・フロー・アロケーション及びバランスシートへの影響をご説明します。

現中経において、鉄鉱石の中長期的な鉱量拡充のために、Rhodes Ridge 事業の取得資金として 5,000 億円を成長投資に算入していました。今般、VOC 並びに AMB と交渉した結果、権益 40% を取得する機会を得ることとなり、本件はマネジメント・アロケーションから 3,000 億円を追加で拠出するに値する希少な機会と判断し、当該権益を総額 8,000 億円にて取得することといたしました。

なお、同時に前中経において一旦バランスシート強化にあてた資金から 4,000 億円を新規にマネジメント・アロケーションへ充当することを決定しました。充当後のマネジメント・アロケーションは 5,500 億円となります。引き続き、既存のキャッシュ・フロー・アロケーションの枠組みの考え方は維持しつつ、規模感あるマネジメント・アロケーションを通じ、中経最終年度に向け、厳選した成長投資と機動的な株主還元を実施していきます。

#### 【結び】

以上が本プロジェクトの説明となります。前中経、今中経と、当社のキャッシュ創出力の強化が進んでいます。強固な収益基盤を背景にした基礎営業キャッシュ・フローと、ポートフォリオ組替えに伴う資産リサイクルによって獲得した資金を効果的に再配分し、また、各業界を代表する世界中のパートナーとのプロジェクトを通じ、ポートフォリオを継続的に強靱化することで、さらなる企業価値向上に繋げて参ります。